研究論文

作業療法士・理学療法士の学習動機付けと職業志向
ー経験年数の比較ー

A study of therapists' motivation of learning and occupational intention
ーComparisions by years of experiencesー

土屋　景子　　金山　祐里　　井上　桂子　　吉村　洋輔

川崎医療福祉大学
Keiko Tsuchiya, OTR,　Yuri Kanayama, OTR,　Keiko Inoue,OTR,
Yosuke Yoshimura,RPT：Kawasaki University of Medical Welfare

作業療法おかやま　21：63〜69，2011

Key Words：学習動機付け，理学療法士，作業療法士

2011年12月27日受理

要旨　本研究の目的は職場で働いているセラピストの学習動機付けが経験年数によってどのように変化するかを調査し本大学４年生とも比較し検討することである。対象は本大学４年生28名、セラピストの経験年数１〜５年目130名、６〜10年目63名、11〜15年目29名、16年以上16名を対象に、伊田の学習動機尺度と「この職種を選んでよかったか」を加えたアンケートに回答を求め、群内と群間で比較した。その結果４年生は資格と職業実践、全てのセラピストは職業実践のため、16年以上はそれに加え楽しいから学んでいることが示された。11年以上で、この職業を選んでよかったと思う人ほど、自己成長のために学んでいることが示唆された。

The purpose of this study was to investigate how motivation to study changes for occupational therapists and physical therapists (hereafter, therapists), as experience accumulates. At the same time the investigators compared the motivation to study between therapists actively engaged in work and fourth year students in our university.
As subjects, we chose 28 students in their fourth year at our university, 130 therapists engaged in work for 1~5 years, 63 therapists engaged in work for 6~10 years, 29 therapists engaged in work for 11~15 years, 16 therapists engaged in work for more than 16 years; to measure the degrees of their motivation to study, and to request answers to questionnaires such as "Did you make the right choice in the selection of this occupation?" Afterwards we compared these results with responses in each group and between the groups.
The results showed that for students the motivation to study was to obtain qualifications and to pursue an occupation as a therapist, and for all therapists the motivation to study was to pursue practice in their occupation. Also for therapists who had been engaged in work for more than 16 years, the additional reason for studying was a feeling of satisfaction.
The results also suggested that among the therapists engaged in work for 11 years, the persons who had a feeling of greater satisfaction in choosing this occupation studied harder in pursuit of self-development.

はじめに

学生の「学習動機」や「学習への動機づけ」に関しては、教育心理学の分野で多くの研究が蓄積されている。市川[1]は、労働者の労働意欲を高める要因を探る経営心理学でも動機づけは重要なテーマであり、心理学のすべての領域に関わってきたといっても過言ではない、と述べている。

医療分野では、看護師の動機付けの研究は行われているが、リハビリテーション分野での動機づけの研究は少ない。吉澤[2]は学習意欲が定期試験成績に及ぼす効果について、理学療法学生２年生40名に対しアンケート調査を行い、「外発的動機づけ」、「内発的動機づけ」、「健康度」、「対人関係」、「学院への適応度」を定期試験の成績を比較した。その結果、学院への適応度が高い学生は低い学生より成績がよかったと報告している。

武井[3]は、理学療法学生の理学療法士になりたいというモチベーションについて、１～３年まで高く維持されていると報告している。また、職業イメージとモチベーション「作業療法士（以下、OT）・理学療法士（以下、PT）になりたい」の関係は、１年と３年には中等度の相関がみられたが２年では相関がみられなかったと報告している。

我々[4]は、１年から４年まで、学年進行に伴い、学習動機付けが、どのように変化するか知りたいと考え、本学で学んでいるPT･OT学生にアンケート調査を実施した結果、全体得点では２年が３年と４年より有意に高かった。また、職業志向（PT･OTを選んでよかった）との関係では３、４年で内発的動機付けと中等度の相関がみられた[5]。

このように、学生の動機づけに関する研究は散見されるが、臨床現場で働いている作業療法士、理学療法士（以下、OT・PT）の学習動機づけについての研究はほとんどみられない。

そこで今回、臨床現場のOT・PTの学習動機付け、また、学習動機付けと職業志向との関係は経験年数によってどのように変化するか、さらに、学生とOT・PTとの差異も知りたいと考え、本学４年生とも比較し検討する。

方　法

1. 対象

本学リハビリテーション学科学生４年生（以下、４年生）74名、臨床現場のOT・PTは、本学臨床実習施設のうちOT・PT専攻の共通施設21施設で働いているOT・PT469名を対象とした。

2. 方法

４年生は、臨床実習終了後の平成21年10月２～５日、伊田[6]の学習動機尺度を用いたアンケートを（以下、アンケート、表1）配布し、１週間以内に回収した。OT・PTは、平成22年11月６日、アンケートを郵送、同年11月15日までに回収した。アンケートは、無記名とし、研究の趣旨を文書にて説明し同意を得た者に経験年数のみ記載してもらった。

伊田の学習動機尺度[7]は、外発的動機づけが再評価される中で、課題価値側面に焦点を当てたものであり、信頼性と妥当性も示されている。課題価値は、充実感や満足感を喚起する興味価値（以下、興味）、望ましい自己スキーマを獲得する獲得価値、これは自ら向上したいと思う私的獲得価値（以下、私的）と他者との比較による公的獲得価値（以下、公的）、学習することが職業的な目標達成に寄与する利用価値、これは学習内容が制度的に必要である制度的利用価値（以下、制度）、職業実践に必要である実践的利用価値（以下、実践）に５分類される。それぞれ６項目、計30項目と「この職種（OT･PT）を選んでよかったか」（以下、職業志向）を加えた31項目とした。各項目について、そう思う＝５点、まあそう思う＝４点、どちらともいえない＝３点、あまりそう思わない＝２点、全く思わない＝１点の５段階評価とした。学習動機付け尺度の点数幅は、それぞれの分類で６～30点、全体得点では30～150点となる。

表１　学習動機に関する質問項目

興味価値	1. 学んでいて楽しいから
	10. 学んでいて満足感があるから
	13. 興味を持って学ぶことができるから
	18. 学んでいて好奇心が沸いてくるから
	24. 学んでいて楽しいと感じるから
	26. 学んでいて知的な刺激が感じられるから
私的獲得価値	3. 学ぶことによって、より自分らしい自分に近づくことができるから
	9. 学ぶと、自分自身のことがよりよく理解できるようになるから
	11. 今まで気づかなかった自分の一面を発見できるから
	19. 自分の個性を生かすのに役立つから
	21. 自分という人間に対して興味・関心を持つようになるから
	30. 学ぶことで人間的に成長すると思うから
公的獲得価値	4. 身に付けているとかっこいいから
	7. 学んだことが他の人に自慢できるから
	14. 詳しく知っていると他者から尊敬されるから
	17. 学ぶと人よりかしこくなると思うから
	23. 知っていると周囲からできる人として見られるから
	28. 学んでいることに誇りが感じられるから
制度的利用価値	2. 就職や進学の試験突破にとって大切だから
	6. 就職または進学できる可能性が高まるから
	15. 希望する職業に就くための試験に必要だから
	20. 就職または進学する際に要求されると思うから
	22. 自分の進路目標を実現するのに必要だから
	29. 進学をしようとする際に役立つから
実践的利用価値	5. 将来の仕事にかかわる問題を解決するのに役立つから
	8. 将来、社会人として活動するうえで大切だから
	12. 職業を通して社会に貢献しようとするときに役に立つから
	16. 将来、仕事における実践で生かすことができるから
	25. 将来、仕事の中で直面する課題を解決するのに役立つから
	27. 自分の希望する職業の中身に関係するから

表２　各分類の平均値

	興味	私的	公的	制度	実践	動機づけ合計	職業志向
4年生	23.0±4.1	21.0±4.7	16.7±5.6	26.9±2.7	26.9±2.8	114.5±14.8	4.5±0.8
1～5年	23.3±3.8	19.8±5.1	16.8±5.1	17.5±4.9	24.7±3.4	102.1±16.8	4.2±0.9
6～10年	23.7±4.6	19.8±5.5	16.9±5.2	18.1±5.3	25.0±3.9	103.6±17.4	4.2±0.9
11～15年	22.7±4.3	19.6±5.1	15.8±5.4	16.8±5.5	25.4±3.8	100.3±18.8	4.1±1.1
16年以上	24.3±4.8	21.6±3.4	16.3±16.3	13.9±5.3	25.6±4.4	101.7±17.5	4.4±0.8
セラピスト全体	23.7±4.0	20.2±4.8	16.6±5.1	17.4±5.1	25.1±3.7	103.0±17.1	4.2±0.9

表３　職業志向と動機付け各分類の関係

	興味	私的	公的	制度	実践
4年生	0.603**	0.466**	−	0.263*	0.409**
1～5年	0.288**	0.235**	0.198**	0.236**	0.276**
6～10年	0.405**	0.250*	−	−	0.351**
11～15年	0.500**	0.466*	0.424*	−	0.565**
16年以上	0.512**	0.523**	−	−	0.410**

数値は相関係数　*p<0.05　**p<0.01
−は有意な相関なし

アンケートは学生向けであったのでOT・PT向けは一部用語を改変し用いた。

3. 分析

OT・PTは経験年数（１～５年、６～10年、11～16年、16年以上）で分類した。

４年生及び同一経験年数内の動機付け５分類の比較は、臨床経験が増し、勤務年数とともに、同一経験年数内での動機付け５分類の優先順位がどのように変化するかを検討するために行った。統計学的検定はFriedman検定後、Wilcoxon検定を用い５%未満を有意とした。

動機付け５分類の４年生及び経験年数別の比較は、経験や勤務年数が増すと、動機付けにどのような変化があるか比較するために行った。統計学的検定はKrsuskal Wallis検定後、Mann Whitney検定を用い５%未満を有意とした。

４年生及び経験年数ごとの職業志向と動機付け５分類の関係は、この職業を選んでよかったと思う事と動機付けの関係を検討するために行った。統計学的検定は、Spearmanの相関係数を用いた。いずれも、有意水準は危険率５%未満とした。統計処理にはSPSS15.0 J for Windowsを使用した。

結　果

1. 回収状況

臨床実習施設より回収されたアンケート数は238通、回収率は50.7%、４年生は28通、38%であり、全て有効であった。

2. アンケートの結果

OT・PTの経験年数は、１～５年目が130名、６～10年目が63名、11～15年目が29名、16年以上が16名であった。

(1) 学習動機付けの各分類の比較

アンケートの各項目の平均値を表２に示した。

OT・PT全体の各分類の比較では、実践は興味（p=0.000）、私的（p=0.000）、制度（p=0.000）、

公的（p=0.000）より有意に高値、興味は私的（p=0.000）、制度（p=0.000）、公的（p=0.000）より有意に高値、私的は、制度（p=0.000）、公的（p=0.000）より有意に高値、制度は公的より有意に高値（p=0.004）であった。

４年生及び同一経験年数内の５分類の比較では、４年生で実践の平均値が26.9±2.8、制度の平均値が26.9±2.7で差がなく（p=0.930）高値であった。実践は興味（p=0.000）、公的（p=0.000）、私的（p=0.000）より有意に高値であり、制度も興味（p=0.000）、公的（p=0.000）、私的（p=0.000）より有意に高値であった。興味は、公的（p=0.000）、私的（p=0.024）より有意に高値であり、私的は公的（p=0.000）より有意に高値であった。

１～５年目、６～10年目、11～15年目では実践は、興味（１～５年目：p=0.000）（６～10年目: p=0.020）（11～15年目：p=0.001）、私的（１～５年目：p=0.000）（６～10年目: p=0.000）（11～15年目：p=0.000）、公的（１～５年目：p=0.000）（６～10年目: p=0.000）（11～15年目：p=0.000）、制度（１～５年目：p=0.000）（６～10年目：p=0.020）（11～15年目：p=0.001）より有意に高値であり、興味は私的（１～５年目：p=0.000）（６～10年目: p=0.000）（11～15年目：p=0.002）、公的（１～５年目：p=0.000）（６～10年目: p=0.000）（11～15年目:p=0.000）、制度（１～５年目：p=0.000）（６～10年目：p=0.000）（11～15年目：p=0.002）より有意に高値であった。１～５年目、６～10年目で私的は、公的（１～５年目:p=0.000）（６～10年:p=0.001）、制度（１～５年目：p=0.000）（６～10年：p=0.000）より有意に高値であったが、11～15年目では、私的は公的（p=0.001）より有意に高値であったが、制度（p=0.081）とは差がなかった。

16年以上では、実践は興味（p=0.081）と差がなく、実践は、私的（p=0.000）、公的（p=0.000）、制度（p=0.000）より有意に高値であり、興味も同様に、私的（p=0.013）、公的（p=0.001）、制度（p=0.002）より有意に高値であった。

私的は、公的（p=0.001）、制度（p=0.001）より有意に高値であり、制度は私的（p=0.081）、公的（p=0.062）とは差がなかった。

全ての経験年数で、制度と公的は差がなく低値であり、１～15年目は実践が最高値、16年以上は実践と興味は差がなく高値であった。

(2) 各分類の４年生及び経験年数別の比較

５分類における、４年生及びOT・PTの経験年数間の比較では、動機付け合計得点で、４年生は６～10年目（p=0.007）、11～15年目（p=0.004）、16年以上（p=0.025）より有意に高値であり、１～５年目（p=0.057）より高い傾向がみられた。制度で、４年生は全ての経験年数のOT・PTより有意に高値であり（１～５年目：p=0.000）（６～10年：p=0.001）（16年以上：p=0.000）、16年以上は１～５年目（p=0.019）、６～10年目（p=0.002）より有意に低値であった。実践で、４年生は６～10年目（p=0.004）より有意に高く、職業志向でも、４年生は６～10年目（p=0.009）より有意に高かった。

OT・PTの経験年数ごとの比較では、制度で16年以上は、１～５年目（p=0.002）、６～10年目（p=0.002）より有意に低値であった。

(3) 職業志向と動機付けの関係

４年生及び経験年数ごとの職業志向と動機付けの関係を表３に示した。

職業志向と動機付け各分類の関係では、４年生は、興味、私的、実践に中等度の相関、制度と弱い相関がみられた。

１～５年目は興味、私的、制度、公的、実践に弱い相関、６～10年目は興味に中等度、私的と実践に弱い相関、11～15年目は興味、私的、公的、実践に中等度の相関、16年以上では興味、私的、実践に中等度の相関がみられた。

４年生、１～５年目、６～10年目では興味との相関が、11～15年目では実践との相関が、16年以上では私的との相関が最も強かった。

考　察

1. 学習動機付けの各分類の比較

OT・PTの全ての経験年数で制度と公的の値が低値であり両者には差がなかった。制度とは制度的獲得価値のことで就職に必要であることを意味しているため、既に就職しているOT・PTの動機付けとはならないことが示唆された。一方、公的とは公的獲得価値、これは他者との優劣に焦点が向けられる相対比較志向[7]であるから、OT・PTは他者との比較、即ち、他者より勝つ、負ける、他者から尊敬されるために学んでいるのではないことが示唆された。また、OT・PTの全ての経験年数で実践は制度より有意に値が高かったが、4年生では、実践と制度は最高値であり、差がなかった。OT・PTは臨床現場で職業実践において有用であるから学びたいと願い、学生は就職や資格取得と職業実践のための両方を目標としていることが示唆された。

16年以上では、実践、興味、私的、公的、制度の順番に値が高かったが、実践と興味、興味と私的、私的と公的、公的と制度の隣り合った全てに差がなかった。16年以上の人数は16名と少なかったため、有意差が出にくかったと考える。一方で、吉田[8]は、看護職アイデンティティは35～40才までに確立される、と報告している。経験年数16年以上の対象者は35～40才以上と考えられ、職場での自己像が明確になり、また、責任ある地位に就き自信も獲得できてくるのではないかと考える。職業アイデンティティが確立されていて、この5分類の優劣は付け難く、動機付けに差がなくなってくるのではないかとも考える。

実践と興味に着目すれば、1～5年目と11～15年目では、実践が興味より有意に高値であり、6～10年目と16年以上では実践と興味は差がなかった。つまり、就職直後は「仕事のため」であり、仕事に慣れて楽しさも加わり、中堅になると「仕事のため」と考え、また慣れてくると楽しさも加わるということを示している。山本[9]は、病院看護職における中間管理職の移行期に生じる葛藤について、達成できない業務や悲観的な心理反応の苛まれる実態がある、と述べている。1～5年目は新しい職場への適応、11～15年目は管理職や新しい役目へ適応するために、「楽しいから」より「仕事のため」の値が高値ではないかと考える。

2. 各分類の4年生及び経験年数別の比較

動機付け合計得点で、4年生は1～5年目より高い傾向があり、他の全ての経験年数より有意に高かった。経験年数ごとの比較では差がなかった。4年生は、臨床実習3期終了後にアンケートを実施した。江藤[10]は、遂行成就はセルフエフィカシー（自己効力感＝うまくできるか）に最も影響を与えると示唆している。つまり、臨床終了後は、有能感やセルフエフィカシーも高まっている上に、目標としていた資格を取得でき社会に貢献できる時、つまり大学入学時の目標を達成できる時が間近に近づいているため全体得点が高いと考える。

興味、私的、公的では4年生及び経験年数別で差がなかった。内発的動機づけである興味価値と獲得価値に差がなかったのは、学ぶことが自らの人間成長のためか、他者との比較か否か、自らの興味のためかなどは経験年数によらず一定に保たれることが示唆された。浅野[11]は生涯学習を促進する要因として「学習動機」と「社会的経験」だけでなく自己効力感などの他の要因の検討も必要であると指摘している。また、戸梶[12]は、看護職における動機づけを維持・促進する要因を勤務年数別に調査した結果、自身の成長の実感では勤務年数に係わらず変化がなかったと報告している。社会的経験を積み自己効力感を得ながら、よりよい治療を提供する必要性を感じ、自らの職業的自己像の確立に向かって進む姿勢は、経験年数に影響されないことが示唆された。

制度で4年生は全ての経験年数OT・PTより有意に高かった。実践においても、4年は6～10

年目より有意に高かった。我々が行った大学１～４年生全ての学年の比較でも、実践、制度の順に値が有意に高値であった[4]。実践と制度は利用価値、即ち学習内容が職業的な実践において有用であることを意味している。４年生で利用価値が高かったのは、PT・OTの資格取得が就職に有利であることを意識しているからであると考える。しかし、実践で４年生は６～10年目より有意に高かったものの、他の経験年数のOT・PTとは差がなかった。実践はどの経験年数でも一番高値であり、臨床現場で実践のために学ぶ気持ちは変わらないことが示唆された。

OT・PTでは、制度が１～５年目と６～10年目は16年以上より有意に高かった。１～10年目は比較的年齢も若く、昇進や進学など将来に向けて展望を持っているが、16年以上は既に責任ある地位にあり、年齢も高いため、昇進や進学を考える機会も減少しているからであると考える。

3. 職業志向と動機づけ５分類の関係

職業志向と動機づけ５分類の関係で、４年生では興味と私的・実践に中等度の相関、制度に弱い相関がみられた。４年生は臨床実習終了直後であり、この職業を選んでよかったと考えている学生ほど、学ぶことが楽しいと思っていることが示唆された。

１～５年目で相関係数が0.2前後で小さいが、全ての分類と相関がみられた。竹内[13]は看護師の入職後５年間の職業アイデンティティ形成について調査し、入職１年目から２年目にかけて拡散が高まり、達成が低下し、その後入職５年目に傾向が変化すると報告している。OT・PTが、職場に適応することや技術が未熟なことに戸惑いを感じ、職業アイデンティティが拡散していることの現れではないかと考える。制度と相関がみられたのは、資格取得の直後で、就職できた安心感によるものだと考える。

興味は１～５年目は弱い相関であるが、他の全ての経験年数で中等度の相関を示している。職業選択に対する自信がある人ほど、学習への興味、喜び、楽しさを感じていると考える。

11～15年目は実践との相関が最も高く、職業志向が高い人ほど専門家として充実するために学んでいることが示唆された。また、他の経験年数では殆どみられない、公的とも中等度の相関があった。井潤ら[14]は、職業アイデンティティや仕事を任されている実感を背景とした仕事負担感が仕事意欲を高めていると述べている。丁度、仕事を任される11～15年目は、自らを他人と比較し、職業人として、より秀でようと努力している人ほど職業志向が高いと考える。

私的は、１～５年目、６～10年目は弱い相関であるが、11～15年目、16年以上では中等度の相関を示している。11年以上のOT・PTは、自分自身の理解、人間成長のために学んでいる人ほど、職業志向が高いことが示された。小倉[15]は、経験年数が多いものは少ないものより自己充実的達成動機が高かったと述べている。職業に満足している11年以上のOT・PTほど自己理解、自己成長のために学ぶことが示唆された。

まとめ

今回の調査で、４年生と経験年数ごとの動機付けと職業志向の関係の特徴が示された。

しかし、分類したデータ数の違いが大きく、その影響が結果に反映されていることは否定できない。

４年生と経験年数内の比較で、４年生は資格と実践が最高値であり、就職や仕事のために勉強しているが、OT・PTは実践と興味、即ち、学ぶのは「仕事のため」「楽しいから」が高値であり、どの経験年数も学ぶことを楽しんでいることが示唆された。４年生は、臨床実習終了直後であり、また、半年後に卒業という時期であったため、自己効力感も充分に感じているため動機付け全体得点が高かった。しかし、４年生と全ての経験年数

で、興味・私的は高値で差がなかった。学生もOT・PTも自らの理想的な自己像に向かい、楽しく学ぼうとする真摯な姿が示された。PT・OTを選んでよかったと思っている人ほど、1～10年目は楽しいから、11～15年目は仕事に必要だから、16年以上では自己成長のために学んでいることが示唆された。

謝辞：本研究の実施にあたり、お忙しい中をアンケートにご協力頂きましたOT・PTの皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

1）市川伸一：学習と教育の心理学．岩波書店，東京，1995.
2）吉澤隆志，原田恭宏：学習意欲が定期試験成績に及ぼす効果．リハビリテーション教育研究13：119－121，2008.
3）武井圭一，和田佐和子，久保田向，糸井睦絵：理学療法士および作業療法士における職業イメージとモチベーションの検討第2報．健康科学大学紀要3：77－82，2007.
4）土屋景子，金山祐里，吉村洋輔，井上桂子：学生の学習動機付けについて．リハビリテーション研究15：127－129，2010.
5）土屋景子，金山祐里，吉村洋輔，井上桂子：学生の学習動機付け－職業志向との関係－．第44回日本作業療法士学会：438，2010.
6）伊田勝憲：教員養成課程学生における自律的な学習動機づけ像の検討．教育心理学研究51：367－377，2003.
7）伊田勝憲：課題価値評価尺度作成の試み．名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程紀要48：83－95，2001.
8）吉田なよ子：病院勤務の女性看護職の年齢，経験年数，職業アイデンティティ，看護専門職的自律性，バーンアウトの関連．日本赤十字看護会誌7(1)：68－77，2007.
9）山本雅子：病院看護職における中間管理者への移行期に生じる葛藤.看護63（7）：20－26，2011.
10）江藤尚子：看護教員のモチベーション．日本看護学会論文集41：201－204，2011.
11）浅野志津子：学習動機が生涯学習参加に及ぼす影響とその過程．教育心理学研究50：141－151，2002.
12）戸梶亜紀彦：看護職の職務動機づけに影響を及ぼす要因．日本心理学会第73回大会発表論文：276－277，2009.
13）竹内久美子：新卒看護師の職業アイデンティティ形成と職務態度．目白大学健康科学研究1：101－109，2008.
14）井潤有美，坂本義和，村上知子，武藤教志：精神科看護師の仕事意欲とサポートの実感及び職場ストレッサーとの関連．日本看護学会論文集39：122－124，2009.
15）小倉能理子，會津桂子，安杖優子，西沢義子：看護師の職業意識と達成動機の実態．日本看護科学学会学術集会講演集29：280，2009.

「福祉車両があったら楽になるのに･･･」
でも、
「選び方が分からない」「新車は予算的に無理」
「どこに相談すれば･･･」
↓

オアシスジャパンでは、福祉車両の ①中古車販売 ②改造 ③レンタカー
④買取り ⑤助成金、税金免除のアドバイス など、お力になれるかもしれません。

㈱オアシスジャパン ☎086－277－4030 岡山市中区江崎210 AM9:00～PM7:00 定休日 日曜

ホームページも見てください！→ オアシスジャパン 検索